



(発行名義人) SSKR
 障害者団体定期刊行物協会
 東京都世田谷区砧6-26-21
 1992年4月17日
 第三種郵便物認可
 (毎月3回7の日発行)
 2017年9月21日発行
 定価60円
 SSKR増刊通巻第8183号

(編集人) 公益社団法人
 横浜市身体障害者団体連合会
 横浜市港北区鳥山町1752
 障害者スポーツ文化センター
 横浜ラポール3階
 平井 晃



福祉の集い

「創作和太鼓集団 打鼓音(だこおん)」

による演奏

「第67回福祉の集い」開催

7月9日(日)ラポールシアターを会場に「第67回横浜市身体障害者福祉の集い」が開催されました。

第1部式典では、主催者の浜身連・平井理事長の挨拶の後、障害福祉の増進に永年ご尽力いただいた各団体の役員及びボランティアの方々の方々の表彰(氏名等別掲)、来賓の健康福祉局障害福祉部長・本吉究様、市会健康福祉・医療委員会委員長・今野典人様より祝辞をいただきました。

第2部では「創作和太鼓集団 打鼓音(だこおん)」の演奏があり、聴覚に障害のある立花則子さんは、「私は耳が聞えませんが、太鼓を打つ音の強さ・弱さなど色々な音が身体に響き伝わってきて大変感動しました。とても楽しかったです。」と感想を述べられました。

第3部は抽選会があり、抽選番号が読み上げられるたび、参加者は一喜一憂していました。

大会宣言

障害者差別解消法が昨年の4月に施行され、1年が経過しました。この間には、相模原の障害者施設での大変痛ましい殺傷事件や、視覚障害者の駅ホームからの

相次ぐ転落事故が発生し、障害者の置かれている厳しい現実が浮き彫りになりました。また、東日本大震災により、多くの被災者が長期にわたる苦しい避難生活を続けている中、熊本県を中心に発生した大きな地震災害は、災害時の支援体制への不安を改めて呼び起こしました。法律の整備とともに様々な取組みも進められてきましたが、障害者は、いまだ共生社会への変化を実感できない状況にあります。

私たちの周りに、障害の有無によって社会から分け隔てられ、孤立している人はいないでしょうか。

障害者は、つながりの大切さと声かけの力が、どんなに大きいかを知っています。私たちは、共に生きる社会の一員として、出会いの中での対話を大切にしていきたいです。互いに語り合うなかで、心を結ぶことができたなら、そこに大きな安心がうまれます。

障害者は、社会の中にある障壁が、どのようなものを多くのかの体験によって知っています。私たちは、共に生きる社会の一員として、社会とのつながりをひろげていきます。互いに知り合うなかで、私たちの気付きが伝われば、そこに新たな共生がうまれます。

共生社会への道のりは、決して平坦ではありませんが、3年後の2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックは、大きなチャンスとなります。街に出て、理解と共感の輪を広げましょう。障害者の自立と社会参加の動きを加速し、次の世代に引き継いでいきましょう。

浜身連は、障害当事者の団体として、今後とも障害者の声を発信していきます。そして、障害のあるなしにかかわらず互いを尊重し合い、誰もが安心して生き生きと暮らしていける共生社会を目指し

て、各団体との強い連携のもとに行動することを誓い、ここに宣言します。

被表彰者一覧(敬称略)

◇団体活動功労賞◇

- 関塚龍補(横浜市視覚障害者福祉協会)
- 横山正末(横浜市聴覚障害者協会)
- 黒田藤雄(横浜市港笛会)
- 川崎志津子(横浜市腎友会)
- 小野孝俊(横浜市腎友会)
- 鈴木修蔵(横浜市オストミー協会)
- 玉木啓子(横浜市オストミー協会)
- 小川由恵(横浜市中途失聴・難聴者協会)
- 川井節夫(横浜市身体障害者団体連合会)
- 小林三與次(横浜市身体障害者団体連合会)
- ◇ボランティア活動功労賞◇
- 岡野光子(横浜市肢体障害者福祉協会)
- 永沼栄輝(横浜市身体障害者団体連合会)



浜身連・平井理事長より表彰を受ける川井節夫様

平成28年度 浜身連事業報告

I 横浜市身体障害者団体連合会事業

- 1 法人運営
理事会、総会、四役会議
- 2 外出支援事業
浜身連ハンディキャブ
運行事業(6台)貸出事業(2台)
ガイドボランティア事業・研修
JRシバング倶楽部取扱
障害者雇用相談事業
(毎月第2・4土曜日)
- 3 スポーツ・レクリエーション事業
横浜市身体障害者運動会
ハンディキャップテニス教室
ハンディキャップテニス大会
横浜市身体障害者囲碁・将棋大会
- 4 普及啓発事業
広報誌「浜身連」発行(年3回)
ホームページ運営
横浜市身体障害者福祉の集い
収益事業等
- 5 商店運営事業(ラポール、リハセ
ンター)、自動販売機 13台
新年の集い
- 6 関係諸団体との連絡調整
日本身体障害者福祉大会(京都)
日身連関東甲信越静ブロック協議会
①春季(団体会長会議)(栃木)
②秋季(代表者会議)(川崎)
- 7 政令指定都市身体障害者福祉団体
連絡協議会(神戸)
政令指定都市身体障害者親善スポー
ツ大会(神戸)
- 8 政令指定都市身体障害者福祉団体
連絡協議会(山梨)
横浜市協議員団と浜身連加盟10団体
との政策懇談会(平成29年度予算要望)
- 9 防災研修の開催

II 障害者社会参加推進センター事業

- 1 推進協議会運営
推進協議会(2回)
3 障害部会(各2回)
各種相談事業
- 2 ピア相談事業(電話・来所)
身体・知的・精神障害者相談
ピア相談員研修会(4回)
結婚相談事業
関東甲信越静ブロック合同友愛の
集い(横浜)
- 3 シャンボひまわりの集い(山梨)
障害者110番事業研修会
日身連関東甲信越静ブロック身体
障害者相談員研修会
講座「聞こえと補聴器」の開催
普及啓発事業
広報印刷物等の作成
冊子「心と手をつなぐ」改訂
啓発パネルの作成・展示(市民ホール)
障害者週間啓発事業「講演・小室等
さん」
普及啓発講演会・研修会
ブロック別フォーラム(浜家連)
メンタルヘルス講座(浜家連)
第19回ふれあい泊研修会(断酒会)
障害者の成人を祝うつどい
ホームページの管理・運営
- 4 ハンディキャブ事業(運行・貸出)
運転ボランティア紹介事業、研修会
- 5 更生事業
① 障害者社会参加訓練事業
補装具着用訓練
(横浜市肢体障害者福祉協会)
盲人社会家庭等生活訓練
(横浜市視覚障害者福祉協会)
ろうあ者日曜教室
(横浜市聴覚障害者協会)
音声機能障害者発声訓練
(横浜市港笛会)
背振者等ヘルスセミナー
(横浜市車椅子の会)

平成29年6月23日開催の浜身連理事会において役員が決定しました。

役職	氏名	所属団体・役職
理事長	平井 晃	車椅子の会会長
副理事長	久保 健二	腎友会会長
副理事長	山田 初男	オストミー協会会長
専務理事	加藤 民幸	身体障害者団体連合会事務局長
常務理事	井上 彰	肢体障害者福祉協会会長
理事	池田 信義	視覚障害者福祉協会副会長
理事	内田 元久	聴覚障害者協会副理事長
理事	原 泉	港笛会会長
理事	松島 雅樹	脳性マヒ者協会会長
理事	鈴木 真実	中途失聴・難聴者協会会長
理事	前田 福二郎	もみじ会会長
監事	門脇 宏	肢体障害者福祉協会監事・相談役
監事	山根 則子	オストミー協会幹事

浜身連役員が決定

(任期：2年後の総会まで)

横浜北RCから 車椅子寄贈

5月18日、



(手前) 浜身連・平井晃理事長
(後ろ右から2番目)
横浜北ロータリークラブ 中村美知生会長

横浜北ロータリークラブ(中村美知生会長)から、浜身連に車椅子2台が寄贈されました。同日、浜身連会議室で行われた贈呈式には、同クラブのメンバーと平井晃・浜身連理事長らが出席しました。

「情報保障の拡充に着手」

～浜視協に点字プリンター寄贈～

浜視協は、活動状況を知らせる『会報 浜視協』の発行を始め、各種福祉関係の情報提供を行っています。点字使用者に対しては、日々、点字プリンターを活用して配布してきましたが、古い使用機器は耐用年数を超えており、メンテナンスの対応に苦慮しておりました。



点字プリンターの前にて
浜視協・大橋由昌副会長

成28年度の事業としてご助成いただきました。防音ボックス付きですので、団体交流室の浜視協事務局でフル稼働しています。

「障害者差別解消法」 施行後1年が経過して

障害者差別解消法は、行政機関や事業者に対して、障害を理由とする不当な差別的取扱いの禁止、障害のある人が日常生活や社会生活を送る上で障害を取り除く合理的配慮の提供について定めています。

特に、合理的配慮の提供は、国の基本方針では、「社会モデル」の考えを踏まえたものであるとしています。「社会モデル」とは、障害のある人が社会生活において困難に直面するのは、社会が「障害(障壁)」をつくっており、それを取り除くのは社会の責務であるとするものです。

社会全体でこのことを理解し、障害者差別の解消に取り組むことが求められています。

「当事者の声」ともに

横浜市では、平成26年に横浜市障害者差別解消検討部会(以下、「検討部会」という)を設置するとともに、「障害者差別に関する事例の募集」を行い、いただいた事例をもとにして取組の検討を進めてまいりました。

障害者差別に関する事例や、検討部会委員の皆様よりいただいた生の声を通して、障害のある人一人ひとりの声に向き合い、障害者差別の現実を受け止めることから、差別の解消への道のりがスタートしました。

「対話の中に差別解消への 答えがある」

検討部会を通して、会議での議論はもちろんのこと、委員の皆様と様々なお話をさせていただく機会がありました。障害や社会に存在する障壁について、私

ただき、大変感謝しています。こうした一つ一つの対話の繰り返しの中で、差別解消に向けたヒントを数多く教えていただきました。

法施行後、多くの方から「差別の解消に向けて何をしたらよいのか」という質問をいただきましたが、その答えは、障害のある人との「対話」の中に存在するとお答えするようにしています。差別解消への答えは、一人ひとり異なるものから。

「差別解消に向けた歩み」

障害者差別は、誰かが解消してくれるものではなく、長い道のりになります。社会全体で障害者差別の問題をきちんと受け止め、一人ひとりが考え、自ら行動することによって初めて解消されるもの

です。障害者差別解消の推進は、横浜市としても、しっかりと進めていかなければなりません。障害のある人が、自ら声をあげていただくことがとても重要です。障害のある人も障害のない人も暮らしやすい横浜の実現に向けて、一緒に前進していきたいと思えます。よろしくお願ひします。

(横浜市健康福祉局障害企画課 差別解消法担当係長 嶋田慶一)

横浜市議員団との 政策懇談会開催

浜身連加盟10団体は、去る6月に、横浜市会の自由民主党、日本共産党、公明党、民進党(開催順)に対し平成30年度予算

に関する予算要望行動を行いました。各団体からは、災害時や日常生活上の困難など様々な要望を説明し、各党の議員の方々も熱心に聞き入り、質疑がなされました。

また、7月には、健康福祉局への要望が行われました。

「第62回日本身体障害者福祉大会 ぎふ清流大会」に参加して

今回、5月30日(火)31日(水)に開催され、浜身連からは平井昇理事長はじめ5名が出席しました。

会場に移動中、岐阜県の重要文化財「金鳳山正法寺の大仏」を見つけました。高さ13・7Mの木造骨格に外装は竹材を編み、粘土を塗りその上に経文を張り、漆を施して表面に金箔を



日身連・阿部一彦会長挨拶

に金箔をのいた、日本一の乾漆仏様でした。パリアフリーにはほど遠い建築物でしたが、厳かな表情で微笑んで居りました。

大会では、講演とシンポジウム、会長表彰などが行われるとともに、大会宣言及び大会決議が満場一致で採択されました。

このシンポジウムのテーマは「ユニバーサルデザイン2020行動計画がめざす共生社会と障害者団体の役割について」でした。

シンポでの当事者からの意見の中で「各団体は当事者意識を持って、困っている事や問題点を伝えて欲しい。その事により相互理解が深まり、解決策が見つかる」「学校での障害者教育については、浅い体験しかできない様に感じる。もっと工夫して深く掘り下げて実施願いたい」の言葉が強く印象に残りました。(横浜市オーストミー協会会長・山田初男)

人生100年時代 「過去のモデルは役に立たない」

横浜市もみじ会は、呼吸器に疾患や障害を持つ方たちの団体ですが、近頃は、会員数の減少が止まらず、現在会員数は60名ほどです。

減少の原因は高齢化といわれていますが、手をこまねいているばかりではいられません。

現在、日本では100歳以上の人は6万人以上です。今後、100歳を越えて生きる人ももっと増えていくと言われて

いる中、ともすれば、負の面ばかりに焦点が当てられがちですが、長寿化の潮流を恩恵という視点で目を向けると多くの可能性が見えてくると思えます。

また、近年の科学界では、加齢により脳の機能は衰えるばかり……の常識が「脳は鍛えられる」との新しい発見がなされ、機能低下を防ぐためには、体を動かすことで、脳に酸素が届くからとも言われています。

重要な科学的発見です。これは、私の「間質性肺炎」の機能維持も同じで、今は、「病」も自分なりに受け容れられ、弱った足腰を回復するために、週一度「テイスアービス」に通い、マシン中心に筋力を強化しています。

「病」とは、良き知らせ!

「酸素ボンベ」と一生のお付き合いと言われ、相当落ち込んでいたときに、救われた田坂広志著との出会い。「病気になるって「健康」、大病になって「命」の有り難さ、「かけがいの無さ」を知ることになります。

与えられた命、与えられた人生、与えられた一日一日を、精一杯生きていく。

「病」は、大切な「生き方」を教えてくれる「良き知らせ」なのです。いま、生きています。この病のために「いま」を失うなうこととはしない

「いまを、生きよ！いまを、生き切れ！」心のあり方の智慧を学び、病を受け容れることが出来ました。

今日、最新の医学・科学情報・心の技法に時間を投資することも、大切になってきていると思います。

人生100年時代になれば、過去のモデルは役に立たないのかもしれない。

(呼吸器機能障害者団体)

横浜市もみじ会理事

畦田堅持(うねたけんじ)

薬物依存症を抱える家族の会

「横浜ひまわり家族会」

私達は、薬物依存症を抱え苦しんでいる家族の回復と、成長を目指すことも当事者グループを支援しています。また、薬物依存症は病気であり、回復可能であることを広く社会に啓発し薬物依存症の防止と偏見のない社会を目指して活動しています。

昨年(平成28年)横浜市障害者社会参加推進センターに入会し、事務局を横浜ラポール3階団体交流室2に置き活動しています。

●活動内容

「家族会」

依存症の問題を抱え苦しんでいる家族や関わっている方ならどなたでも参加できます。

①ミーティング 家族同士で話し合うことで家族・当事者の回復を目指します。

(毎月第2土曜日午後1時～4時・南センターにて開催)

②家族研修会 薬物依存症専門の精神科医師等専門家を招き、依存症回復のための知識の習得をするための研修会です。(毎月第4土曜日午後1時～4時・横浜ラポール3階会議室1にて開催)



家族研修会の様子

③ヒギナー相談

初めて相談にくる家族に対しての個別相談です。

「薬物依存症と家族オープンセミナー」

「薬物依存症は病気である」という正しい理解を促進することを目的に、薬物・アルコール等の問題を抱えて苦しんでいる家族、当事者、薬物問題に関する援助者や一般の人を対象に開催しています。

～ 障害者週間啓発事業 ～

あそどぐ

『寝たきりお笑いライブ』

&

ひよこっち 『手話パフォーマンス』

12/3(日) 13:30～ 入場無料；先着 300名

●会場：横浜ラポールラポールシアター

●開場：13時 ●開演：13時半

●終演：15時半

第33回浜身連運動会のお知らせ

- 日時 平成29年10月22日(日) 午前11時から午後4時
- 会場 横浜ラポールグラウンド
- 種目 車椅子競走・綱引き・玉入れ・パン食い競走など

雨天の場合は中止

※実施の有無は当日、電話・FAXにて8時から9時までに大会事務局へお問合せ下さい。

電話 045-475-2060

FAX 045-475-2064

※詳細は、浜身連ホームページで

横浜市障害者パソコン講習会

13時～16時 ラポール3F パソコンルームにて

1101コース 写真の取込と加工
11/20(月)21(火)

1102コース 写真の取込と加工
11/22(水)24(金)

肢体・内部・精神・聴覚などの障害対象

肢体・内部・精神・聴覚などの障害対象

Windows10、Office2013で講習します

申込：直接窓口か往復ハガキ

住所・氏名・年齢・TEL・FAX・コース・障害名(等級)・手話・筆記通訳必要の有無を記入

締切：10月20日(金)

受講料：500円 テキスト代：無料



問い合わせ・送付先：

横浜市障害者社会参加推進センター

〒222-0035

横浜市港北区鳥山町1752 横浜ラポール3階

TEL 045-475-2060 FAX 045-475-2064

編集後記

私は新横浜の近くを流れる鶴見川沿いを良く散歩します。毎日8000歩以上歩くことを日課にしていますが、ただ歩くだけですと面白くなく長続きしません。そこで双眼鏡を携えて小鳥や草花を探しながら歩きます。小鳥の声は「さえずり」もあれば「地鳴き」もありますから聞き耳を立てて、キョロキョロしながら歩いています。

横浜線の鴨居の付近は冬場には、名前の通り色々な種類の鴨が飛んで来ます。カルガモ、コガモ、ヒドリガモ、オナガガモ、たまにマガモ、その他オオバン、コバン、キジ、シラサギのような鴨以外の鳥も見かけます。小鳥もシジュウカラ、ジョウビタキ、ヤマガラ、カワセミ、メジロ、コゲラ、ムクドリ、ツグミ、オナガなど見かけます。今年も会えることを楽しみにしています。

皆さんもこれから健康に注意しながら大いに歩いて、秋から冬を楽しみませんか。

(副編集長 高橋昌彦)